

2007年10月4日

TFT-LCD用大型ガラス基板の製造能力を増強

～世界最大のG10サイズに対応した生産体制を確立～

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社（本社：東京、社長：門松正宏）は、TFT-LCD（薄膜トランジスタ方式液晶ディスプレイ）用ガラス基板の製造能力を増強することを決定しました。高砂工場（兵庫県高砂市）において、総額約300億円を投資し、第10世代のガラス基板まで対応可能な、製造窯（生産能力：500万㎡/年）及び研磨ラインを設置します。なお、製造窯は2008年秋、研磨ラインは2009年中に、それぞれ量産開始の予定です。

TFT液晶パネルの需要は、パソコン用途に加えて、テレビ用途でも需要が本格化しており、今後も台数ベースで年率20%増の見込みです。また、TFT液晶パネルメーカーにおいて、第6世代以上の大型マザーガラスサイズでの生産が主流となっており、今後は、世界最大サイズとなる第10世代の生産も計画されています。そのためガラス基板の需給は大型サイズを中心に一層逼迫することが予想され、ガラスメーカーとしては、大型サイズのガラス基板を安定的に供給できる体制の確立が求められています。

当社は、これまでも日本・韓国・台湾において、ガラス基板の需要増加に合わせて製造能力を増強するとともに、大型ガラス基板の技術開発を進めてきました。今回は、今後の更なる需要拡大とマザーガラスサイズの大型化に対応するため、高砂工場に第10世代のガラス基板も生産できる、製造窯と研磨ラインを増設します。高砂工場は、現在TFT用ガラスの製造窯2基及び第8世代まで対応できる研磨ラインを有し、当社のTFT用ガラス生産の国内最大拠点であり、既存の人的資源・インフラを有効活用できます。加えて、新たに土地取得・賃借することなく建屋建設スペースを確保できるなど、効率的な立地条件を備えています。

当社は、今後も日本・韓国・台湾でのガラス基板の需要動向と既存製造設備の生産性向上を総合的に勘案し、必要な設備増強を図っていくとともに、当社のフロート法と大型研磨技術の強みを最大限に活かし、お客様のニーズに適した製品を安定的に供給していきます。

以上

本件に関するお問い合わせ先：旭硝子株広報・IR室長 川上 真一

（担当：斎藤 TEL:03-3218-5509、Email:info-pr@agc.co.jp）

<ご参考>

1. 当社のTFT-LCD用ガラス基板生産拠点

- 日本国内 ~ 京浜工場、関西工場、**高砂工場**、AGCディスプレイグラス米沢（米沢市）
- 台湾 ~ AGCディスプレイグラス台湾
- 韓国 ~ 旭硝子ファインテクノ韓国

2. 高砂工場の概要

- (1) 所在地 兵庫県高砂市梅井5 - 6 - 1
- (2) 代表者 工場長 原納 猛
- (3) 生産品目 TFT-LCD用ガラス基板、SiC製半導体装置部材
- (4) 敷地面積 約38万㎡